

2024年5月10日

2024年3月期  
連結決算説明資料

双葉電子工業株式会社

1. 本資料に記載されている業績予想については、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいた見通しであり、為替などの潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは異なる結果となり得る事をご承知おき下さい。
2. 本資料に記載されている金額は、百万円は単位未満を切り捨てし、億円は単位未満を四捨五入して表示しています。
3. 本資料に記載されている当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を指しています。

● 当社製品セグメントの説明	P1
● 業績ダイジェスト	P2
● 市場地域別売上高	P3~4
● セグメント別業績状況	P5~6
● 連結貸借対照表の状況	P7
● Re-Futaba 構造改革	P8
● 報告セグメント名称変更について	P9
● 翌期の経営施策	P10~11
● 業績見通し	P12

# 当社製品セグメントの説明

## 電子デバイス関連事業

- タッチセンサー : 独自の薄膜技術を応用し、高感度で耐環境性に優れたセンサーデバイス
- 有機 E L ディスプレイ : コントラストが高く、高精細の美しい画面が魅力の表示デバイス
- 複合モジュール : 表示デバイスにコントロール基板を組み合わせたディスプレイモジュール等  
EMS(電子機器の受託製造)も行っている
- 産業用ラジコン機器 : トラッククレーンや農薬散布用ラジコンヘリ、ドローンなどを遠隔操作する無線リモコン等
- ホビー用ラジコン機器 : 双方向通信機能を搭載した高性能な送受信機、サーボ等

タッチセンサー



有機 E L ディスプレイ



複合モジュール



産業用ラジコン機器



ホビー用ラジコン機器



## 生産器材事業

- プレス金型用器材 : 金属プレス加工に用いる金型用のダイセット、パーツ等
- モールド金型用器材 : 樹脂成形に用いる金型用のモールドベース、パーツ等
- プレート製品 : 金型用途や機械設備、治工具の設計・製作に最適なプレジジョンプレート、CFRP製切削加工用厚板プレート「フェルカーボ」等
- 成形・生産合理化機器 : 金型内計測システム、ホットランナシステム、工作機械IoTモニタリングシステム等、生産工程の合理化を進める製品

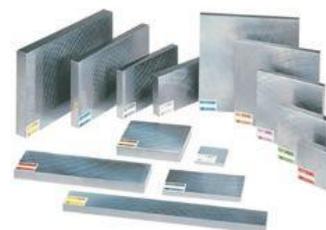
プレス金型用器材 (ダイセット)



モールド金型用器材 (モールドベース)



プレート製品



成形・生産合理化機器 (金型内計測システム)



## 業績ダイジェスト

- 適正売価政策の継続推進に加えて円安による増収効果があったものの、主として市況低迷の影響を受けたことにより減収
- 事業見直しや拠点適正化等の構造改革による一時費用として、事業再編損(特別損失)を24億円計上一方、この構造改革の断行による業績への継続的な効果として、当期は営業利益で21億円の増益

(単位：百万円)	FY2022 (実績)	FY2023 (実績)	増減額 (前期比)
売上高	60,326	<b>56,360</b>	△3,966
売上総利益	8,612	<b>8,752</b>	140
利益率(%)	(14.3)	<b>(15.5)</b>	
営業利益	△2,387	△ <b>1,141</b>	1,245
利益率(%)	(△4.0)	<b>(△2.0)</b>	
(為替差損益)	(583)	<b>(563)</b>	(△20)
経常利益	△1,134	<b>570</b>	1,705
利益率(%)	(△1.9)	<b>(1.0)</b>	
当期純利益	△3,499	△ <b>1,854</b>	1,645
利益率(%)	(△5.8)	<b>(△3.3)</b>	
平均為替レート	135円/\$	<b>144円/\$</b>	9円/\$
期末日為替レート	134円/\$	<b>151円/\$</b>	17円/\$

## 当期の特徴（前期比）

**売上高(減収)**

適正売価政策の継続推進および円安による増収影響もあったものの、事業終息に伴う蛍光表示管や、アウトセルタッチセンサーの売上減少に加え、生産器材における市況低迷により、減収

**営業利益(赤字幅縮小)**

操業度悪化による減益影響を受けたものの、国内外製造拠点の整理を含めた構造改革の断行に加え、全社で固定費の統制を継続強化したことにより、赤字幅縮小

**経常利益(黒字転換)**

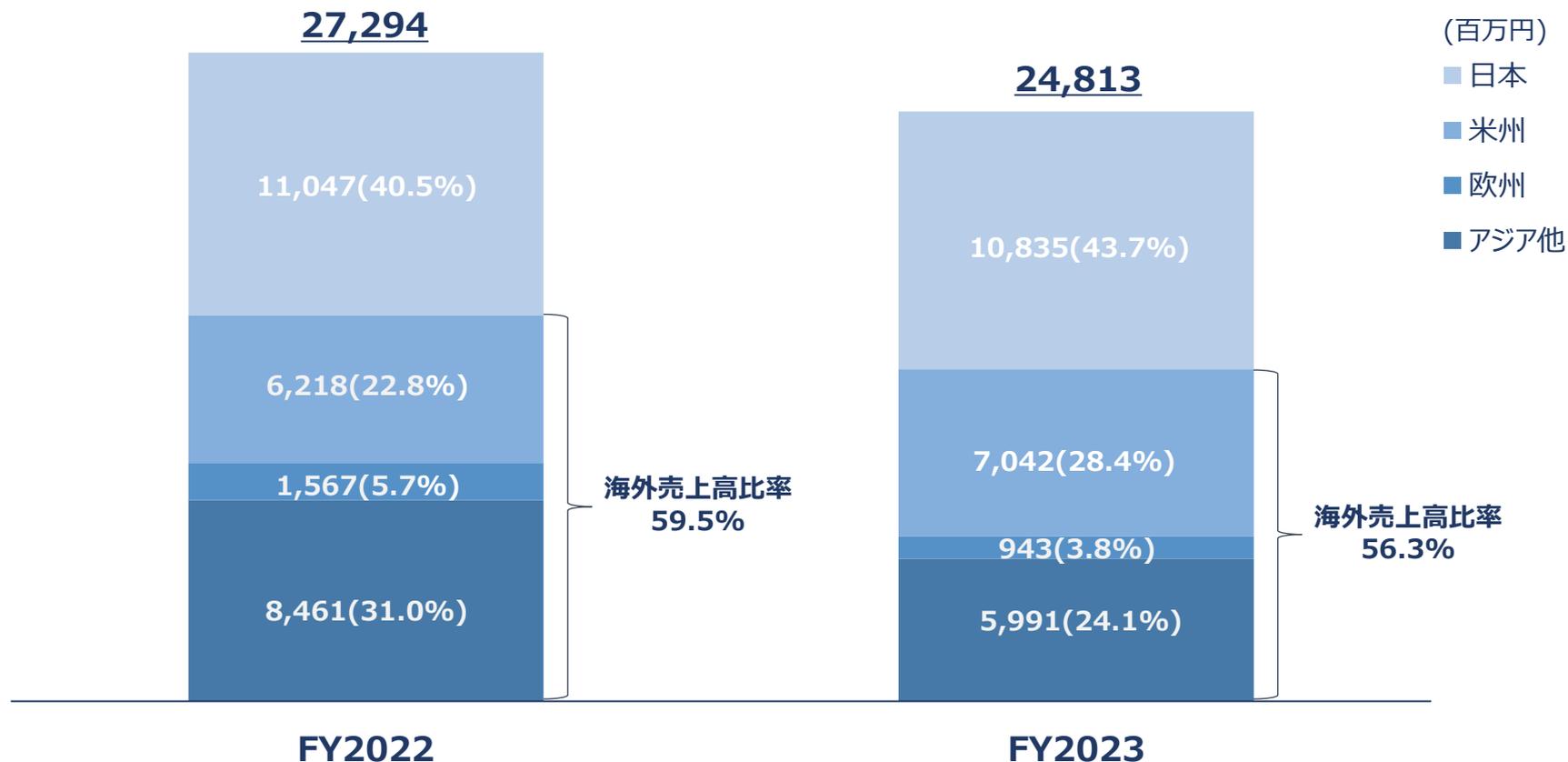
主として、営業損失の縮小に加え、当期も為替差益が生じたこと等により、黒字転換

**当期純利益(赤字幅縮小)**

構造改革による事業再編損を計上したものの、明石精機工場売却による固定資産売却益や投資有価証券売却益の計上により、赤字幅縮小

# 市場地域別売上高/電子デバイス関連

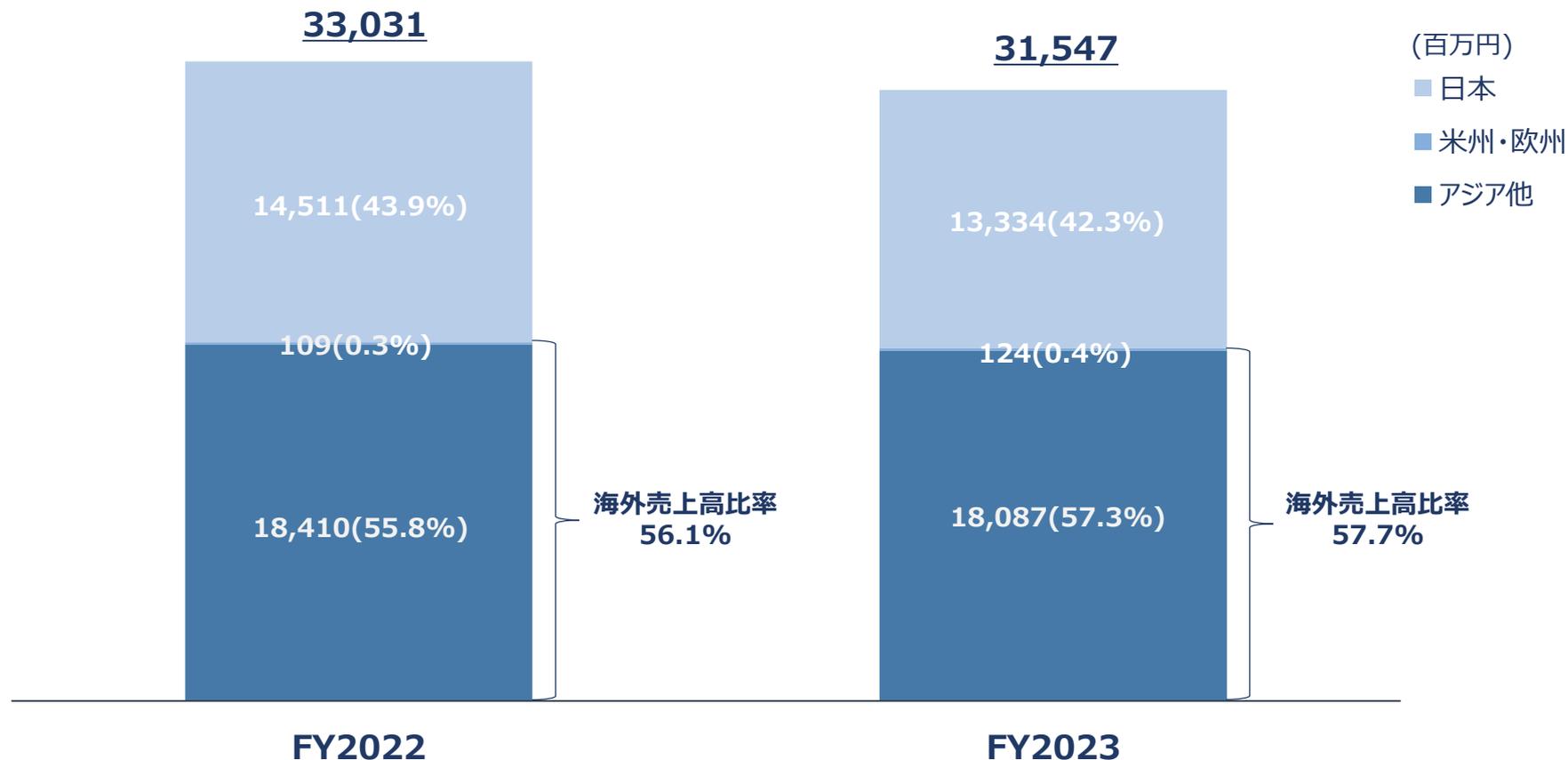
- ▶ 日本 : 適正売価政策の推進や蛍光表示管搭載モジュールの最終受注分の出荷に伴う増収があったものの、EMSや産業用ラジコン機器が低調に推移したことにより、横ばいで推移
  - ▶ 米州・欧州 : ホビー用ラジコン機器が減収となったものの、EMSが好調に推移したことにより、増収
  - ▶ アジア他 : 蛍光表示管の最終出荷が落ち着いたことに加え、アウトセルタッチセンサーの事業終息に伴う受注減少により、減収
- 海外売上高比率 : アジア向けが低調に推移したことにより、△3.2ポイント減少



(注) 1.()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。  
 2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

# 市場地域別売上高/生産器材

- ▶ 日本 : 適正売価政策を継続推進したものの、樹脂成形関連や設備関連市場が低迷したことにより、減収
- ▶ アジア他 : 円安による増収効果があったものの、主力の韓国市場において携帯電話や家電向けの低迷に加え競合との価格競争の影響を受けたことや、中国・アセアン市場でも需要の低迷が続いたことにより、減収
- 海外売上高比率 : 主として、日本向けが低迷したことにより、+1.6ポイント増加



(注) 1.()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。  
 2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

# セグメント別業績状況/電子デバイス関連

(百万円)	FY2022	FY2023	増減額	増減率
売上高	27,307	24,824	△2,483	△9.1%
営業利益	△2,592	△988	1,603	-

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。

## ●売上高

### ・タッチセンサー(減収)※アウトセルタッチセンサー事業終息

顧客における部材調達難が一部で解消したことから国内の車載用途で出荷が進んだものの、海外での販売が縮小したことにより、減収

### ・有機ELディスプレイ(増収)※自社生産終了

適正売価政策の推進に加えて、自社生産終了決定に伴う追加受注があったこと等により、増収

### ・複合モジュール(増収)

部材調達難が一部で解消し、計測器用途は横ばいであったものの、車載用途や娯楽用途が順調に推移し、EMSにおいても車載用途や計測器用途が堅調であったことにより、増収

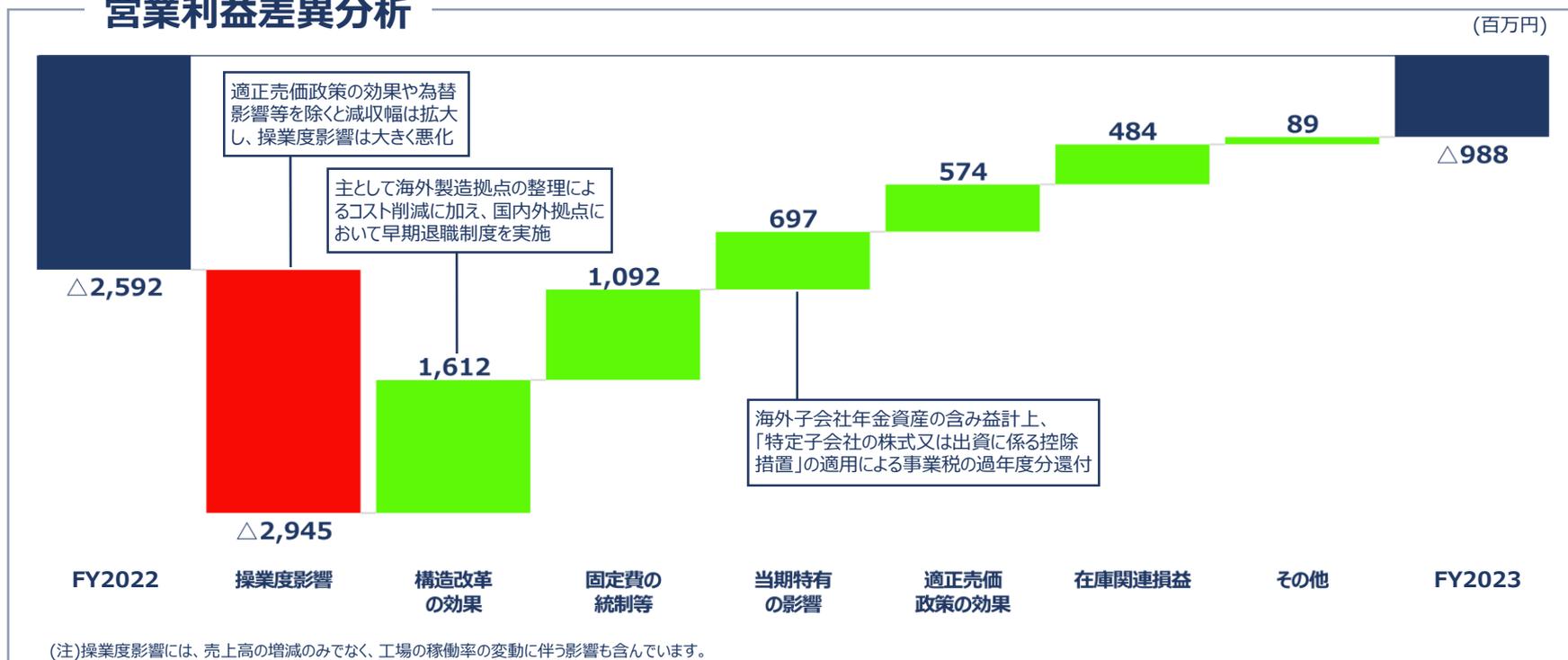
### ・産業用ラジコン機器(減収)

トラッククレーンなどの建機向けは堅調に推移したものの、FA向けが低調に推移したことにより、減収

### ・ホビー用ラジコン機器(減収)

限定企画商品などの市場投入を実施したものの、市況の悪化が継続しており、国内および欧米での販売が低迷したことにより、減収

## 営業利益差異分析



# セグメント別業績状況/生産器材

(百万円)	FY2022	FY2023	増減額	増減率
売上高	33,035	31,549	△1,485	△4.5%
営業利益	205	△153	△358	-

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。

## ●売上高

### ・国内(減収)

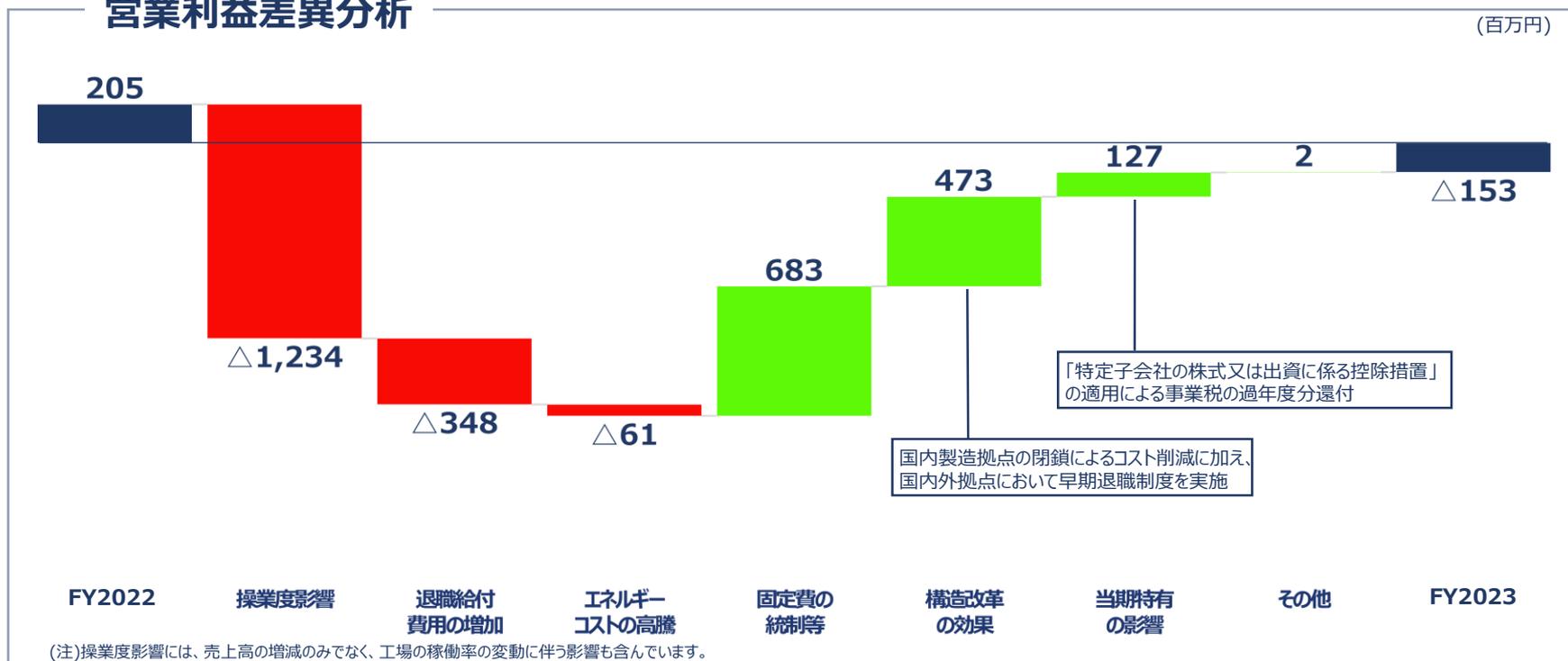
前期から継続して適正売価政策を推し進め、プレス金型用器材は堅調に推移したものの、樹脂成形関連や設備関連市場が低迷し、モールド金型用器材やプレート製品が低調に推移したことにより、減収

### ・海外(減収)

円安による増収効果があったものの、主力の韓国市場において携帯電話や家電向けの低迷に加え、競合との価格競争の影響を受けたことで低調に推移し、中国・アセアン市場でも需要の低迷が続いたことにより、減収

## 営業利益差異分析

(百万円)



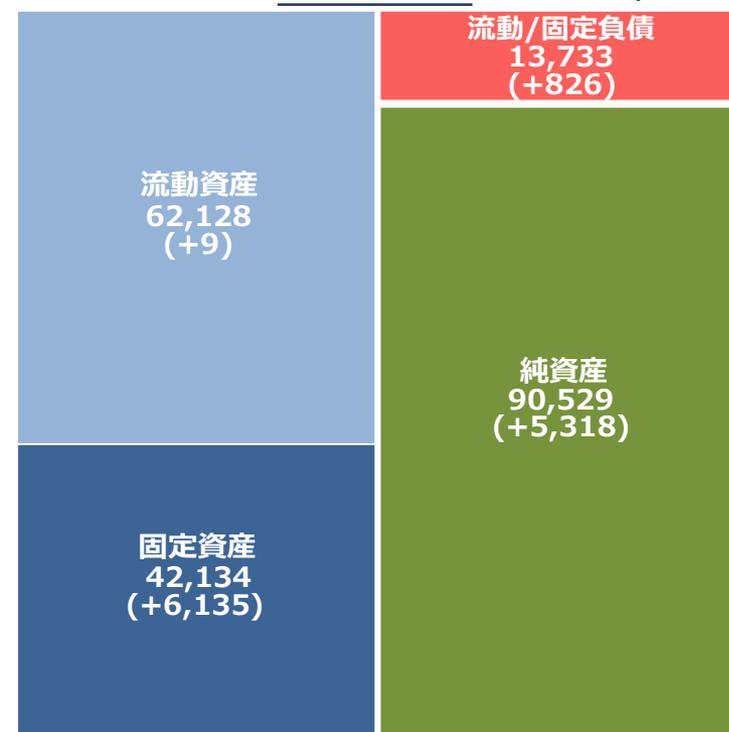
# 連結貸借対照表の状況

## 【主な増減要因】

- 現預金(棚卸資産の削減等による営業キャッシュフローの改善、保有資産の整理等)
- 棚卸資産(製品在庫の減少および原材料の削減)
- 固定資産(投資有価証券評価差額の計上)
- 自己資本(円安に伴う為替換算調整勘定の増加)

(百万円)	FY2022	FY2023	増減額 (前期末比)
現預金	24,068	<b>27,064</b>	2,995
売上債権	16,701	<b>16,846</b>	145
棚卸資産	20,426	<b>17,856</b>	△2,570
その他流動資産	922	<b>361</b>	△561
固定資産	35,999	<b>42,134</b>	6,135
資産合計	98,118	<b>104,263</b>	6,144
流動負債	9,099	<b>8,223</b>	△875
固定負債	3,807	<b>5,509</b>	1,702
自己資本	73,787	<b>78,210</b>	4,423
非支配株主持分	11,423	<b>12,318</b>	894
負債純資産合計	98,118	<b>104,263</b>	6,144

FY2023 (百万円)



自己資本比率：75.0%(前期末：75.2%)  
1株当たり純資産：1,843.89円(前期末：1,739.57円)

資産 負債純資産  
(注) ()内の数字は、増減額(前期末比)を表しています。

## ■ 全社関係

- ▶ 国内事業規模の適正化を目的として特別転進支援制度を実施
- ▶ ディスプレイ関連製品の事業縮小に伴う海外拠点再編を推進し、シンガポール子会社の解散を決定

## ■ 電子デバイス関連

- ▶ 有機ELディスプレイは、RiTdisplay社への生産移管や、自社生産終了に向け人員や組織の適正化を実行中
- ▶ アウトセルタッチセンサーは、事業終息に向け人員や組織の適正化を実行中
- ▶ 蛍光表示管は2023年6月に生産を終了し、製造工場であるフィリピン子会社を清算中

## ■ 生産器材

- ▶ 国内の明石精機工場は他工場へ生産を移管し、2023年8月に工場を閉鎖
- ▶ 中国拠点では人員の適正化によるスリム化を完了し、追加施策を予定

**上記の構造改革を実行し、通期目標の通り21億円のコストを削減**

# 報告セグメント名称変更について

- 次の成長戦略にむけて、シナジー効果が期待できるよう各事業センターにて取り扱う製品群を再定義し、その実効性を高めるため、2024年4月1日付で組織再編を実施  
これに伴い、2025年3月期第1四半期決算より、報告セグメント名称を「電子デバイス関連事業」から「電子機器事業」へ変更（生産器材事業は変更なし）
- システムソリューション事業の産業用ロボティクス領域(産業用ドローン、サーボ)とホビーラジコン事業のホビー用ロボティクス領域を、ロボティクスソリューション事業として統合し、効率的なリソース活用による製品開発を加速

## 変更前

### 電子デバイス関連事業

- ・エレクトロニックコンポーネンツ事業  
タッチセンサー  
有機ELディスプレイ
- ・システムソリューション事業  
複合モジュール  
産業用ラジコン機器
- ・ホビーラジコン事業  
ホビー用ラジコン機器



## 変更後

### 電子機器事業

- ・システムソリューション事業  
複合モジュール  
産業用ラジコン機器  
タッチセンサー  
有機ELディスプレイ
- ・ロボティクスソリューション事業  
産業用サーボ  
産業用ドローン  
ホビー用ラジコン機器

## ■ 全社関係

- ▶ 事業体制の再編・強化を目的とした構造改革の完遂  
(有機 E L ディスプレイおよびアウトセルタッチセンサーの計画完遂)
- ▶ 人財戦略の推進およびITインフラの最適化によるコーポレート機能の強靱化

## ■ 電子機器

### ● システムソリューション事業

- ▶ 産業用ラジコン機器       ：  
安全性や生産性の向上、労働環境の改善など、市場ニーズに対応した無線リモコンの開発と建機・農機分野向けへの拡販強化
- ▶ 複合モジュール               ：  
表示モジュール・センサ端末・無線技術の融合による、遠隔モニタリングや予知保全、技術者・技能者の育成などの市場ニーズに対応したIoT製品の開発

## ● ロボティクスソリューション事業

- ▶ ホビー用ラジコン機器                   ：  
レスポンスや追従性、デュアルバンドなど市場ニーズに対応した新製品の開発
- ▶ 産業用ドローン、サーボ               ：  
点検・防災分野に向けた産業用ドローンの実証実験と機体の開発  
FA分野をターゲットとした小型高トルク産業用サーボの開発

## ■ 生産器材

### ● 精機事業

- ▶ プレート製品・金型用器材           ：  
ものづくり産業の調達を合理化するフタバオーダーサイトやオンデマンド受託製造の対応範囲拡大と、当社工場の自動化による省人化と生産性の向上
- ▶ 成形・生産合理化機器               ：  
射出成形現場での成形条件を最適化する「射出成形AIシステム」の拡販と、その導入から定着までを支援するウェビナーやスクーリングサービスの拡充

# 業績見通し

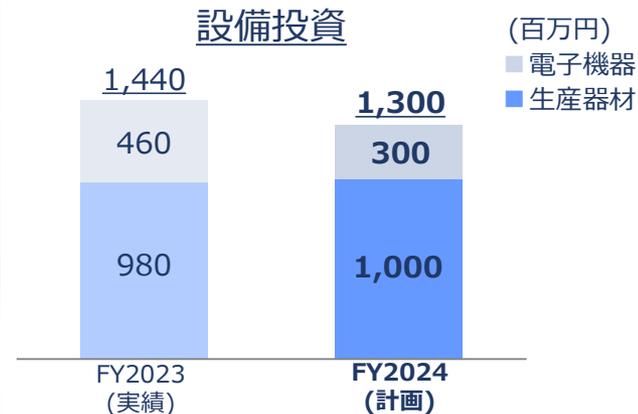
■ 売上高は減収見込みとなるものの、構造改革の断行によるコスト削減の効果が寄与することで営業利益は前期比で赤字幅縮小(下期黒字化)を見込む

※ 半期毎の計画値については、2024年5月10日に公表した中期経営計画資料 5 ページをご参照ください。

(単位：百万円)	FY2023 (実績)	FY2024 (計画)	増減額 (前期比)
売上高	56,360	<b>51,000</b>	△5,360
連結合計 営業利益	△1,141	<b>△400</b>	741
利益率(%)	(△2.0)	<b>(△0.8)</b>	
売上高	24,824	<b>19,000</b>	△5,824
電子機器 営業利益	△988	<b>△900</b>	88
利益率(%)	(△4.0)	<b>(△4.7)</b>	
売上高	31,549	<b>32,000</b>	450
生産器材 営業利益	△153	<b>500</b>	653
利益率(%)	(△0.5)	<b>(1.6)</b>	
(為替差損益)	(563)	<b>(△570)</b>	(△1,133)
経常利益	570	<b>△300</b>	△870
利益率(%)	(1.0)	<b>(△0.6)</b>	
当期純利益	△1,854	<b>△800</b>	1,054
利益率(%)	(△3.3)	<b>(△1.6)</b>	
平均為替レート	144円/\$	<b>145円/\$</b>	1円/\$

(注) 各セグメントの売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。

## 設備投資



## 減価償却費



## 研究開発費

